

平成 25 年度 日本腰痛学会評議員会議事録

日時 平成 26 年 11 月 14 日(金) 17:00~18:00

会場 ニューオータニ幕張 2階 「翔の間」

議長：高橋 和久 会長

会長挨拶

高橋会長より、第 22 回日本腰痛学会は、応募演題 200 題のうち 1 題がシンポジウムでの発表となり、1 題のみ不採用で 198 題を採択したことが報告された。

議事

I. 報告事項

1. 庶務報告

1) 平成 25 年度事業報告

(1) 学術集会の開催

第 22 回学術集会が平成 26 年 11 月 15 日(土)、16 日(日) の 2 日間
幕張メッセ国際会議場(会長 高橋 和久 先生)で開催予定である。

(2) 委員会の開催

平成 26 年 11 月 14 日 理事会、評議員会、11 月 16 日編集委員会が開催予定である。
平成 26 年 3 月 22 日第一回企画委員会が開催された。11 月 15 日に第 2 回企画委員会を開催予定である。
平成 26 年 3 月 22 日第一回会則改定委員会、9 月 19 日第二回会則改定委員会
すでに開催された。11 月 15 日第三回が開催予定である。

(3) 学会誌の発行

平成 26 年 6 月 25 日に JSR 第 5 巻 6 号を発行した。投稿論文数は 25 編で 20 編が掲載された。内容は一般投稿 16 編、学会の主題からの特集 4 編である。

(4) 会員の動向

大西正康先生、河合憲一先生の 2 名が健康上の理由で評議員を退任された。
平成 26 年 11 月 6 日現在の正会員数は 890 名、うち名誉会員 14 名、特別会員 9 名、新入会者 45 名である。退会者は 46 名で、物故会員 3 名 安部龍秀 先生(平成 25 年 10 月 11 日ご逝去)、増田 良孝 先生(平成 25 年 9 月 15 日ご逝去)、横田

英麿 先生（平成 25 年 3 月 12 日ご逝去）である。

今年度は賛助会員が 14 社となった。

II. 審議事項

1. 平成 25 年度決算報告

2. 監査報告

配付資料に基づき決算報告、会計監査が報告され、承認された。

3. 平成 26 年度の事業計画、予算案審議

学術集会開催、学会誌発行、委員会開催予定および予算案が提出され、承認された。

1) 第 23 回学術集会の開催

会長 山縣正庸 先生（千葉労災病院整形外科学 部長（副院長）

日時 平成 27 年 11 月 14（土）、15 日（日）予定

場所 JP タワーホール&カンファレンス

2) 学会誌発行 JSR 第 6 巻 6 号

平成 27 年 6 月 予定

3) 委員会の開催

評議員会、理事会：平成 27 年 11 月開催予定

編集委員会：平成 27 年 11 月開催予定

企画委員会：平成 27 年適宜開催予定

会則改定委員会：平成 27 年適宜開催予定

4. 平成 26 年度予算案

配付資料に基づき予算案報告がなされ、承認された。

5. 名誉会員・特別会員の推薦

名誉会員は該当者なし

特別会員に

1) 松崎 浩巳 先生 苑田会・東京脊椎脊髄病センター

2) 土方 浩美 先生 健康医学協会東都クリニック

が推薦され、承認された。

6. 役員・評議員の推薦

理事の推薦はなし

新評議員

大鳥 精司先生 千葉大学大学院医学研究院 整形外科

橘 俊哉 先生 兵庫医科大学 整形外科

が推薦され、承認された。

7. 正会員・賛助会員の推薦

新会員

小暮英輔 理学療法士 国際医療福祉大学三田病院

袴田 理学療法士 医療法人仁愛会 新潟中央病院

以上2名が推薦され、承認された。

賛助会員の推薦

小野薬品工業株式会社、昭和医科工業株式会社。サンセイ医機株式会社、大正富山医薬品株式会社、中外製薬株式会社の5社が賛助会員に推薦され、承認された。

8. 優秀論文賞の報告

20 編の論文について、選考委員による厳正な審議の結果、秋田大学大学院整形外科 本郷道生先生の論文 “骨粗鬆症患者に対する背筋運動療法の腰背痛と脊柱彎曲に及ぼす効果” に決定した。

9. 法人化に向けての定款案について

事務局二階堂より

法人化にむけて顧問弁護士と定款を作成した。理事会で問題となる点についてメール審議した内容について報告があった。

- 1) 非医師の会員資格について大部分の理事がこれまでどおり正会員とするとの意見であった。
- 2) 理事の定年について
65歳定年という意見が多かった。
- 3) 評議員の定年

65 歳定年とする意見が多かった。

4) 理事の人数制限について

日本脊椎脊髄病学会に沿って 12 人以上 16 人以下とするとの意見が多かった。

5) 編集委員への旅費・謝礼について

必要ないとの意見が大多数であった。

6) 非医師の入会資格について

これまでどおりとする意見が大多数であった。

・高橋会長より本学会が法人化に向かうという方針と理事長制を導入することについて理事会で承認されたことが報告された。理事長には、法人化に向けて中心となって作業にあたっていただくようにする。理事会で福島医大の紺野理事が理事長に推薦され、承認されたことが報告された。

・持田先生より、事務局がある福島医大の紺野理事に理事長をお願いして、法人化にむけての作業を進めていただくのが良いと思われるとの発言があった。

・評議会で紺野理事の理事長就任が発表され、紺野理事より理事長就任のあいさつがあった。

・井口先生より、定款について、第 21 条にある議決権の代理行使について、一人で 2 票もつようなことになってわかりにくい点の指摘があった。また、代理投票があると評議員が出席しなくなるので、評議員本人ができるだけ出席するような方法を検討してはどうかとの提案があった。この点については事務局で検討することとなった。

その他

矢吹先生より、2016 年 9 月に横浜で世界疼痛学会が開催されることが告知された。腰痛学会も疼痛関連の学会であり、会員の先生がたに参加と協力をいただきたいとの案内があった。

IV. 次期会長挨拶

第 23 回日本腰痛学会会長の山縣正庸先生が、平成 27 年 11 月 14 日、15 日で東京の JP タワーホール&カンファランスで開催予定であること、テーマを「腰痛治療一步前へ」としたことを報告した。

第 24 回日本腰痛学会会長の波呂浩孝先生が、平成 27 年 9 月 2 日、3 日に山梨県甲府で開催予定であることを報告した。